

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.10

ドキュメンテーション



平成 22 年度の新入生の皆さん

■充実した大学生活を過ごすための体験的アドバイス

新入生にとっては初めての夏休みですが、充実した大学生活を過ごしていますか。2年生から4年生はそれぞれの大学生活が、入学時に描いた目標を少しずつでも達成できていますか。大学生活は、高校生活よりも自由度が高い分、自己管理、自己責任が伴います。4年間の学生生活を楽しく充実したものにするのも自分次第です。

大学生にとって夏休みと春休みは、普段授業のあるときにはできないことをする絶好のチャンスです。私事ですが、昔大学生であったとき、1年生の夏休みには3週間コースの英文タイプを習いに行きました。その時は、現在のコンピュータ時代を考えてもいみませんでした。医学情報センターでの仕事や教師になってからの仕事で、ホームポジションによるタイピングで速く打てるということが非常に役に立っています。2年生の夏休みには自動車免許の講習に通いました。しばらくペーパードライバーでしたが、それから10年以上経って必要があって運転しなければならなくなりました。当時職に就いていましたので、その時は時間が無く取ろうと思っても取れない状況でした。学生時代に取っておいて本当に良かったと思いました。免許取得には時間がかかります。学生時代に取っておくとよいでしょう。3年生の夏休み

は、1年生のときに習いに行った英文タイプのところに再度行き、商工会議所のより上級クラスの資格取得を目指して特訓に励みました。4年生のときは、大学院で図書館情報学の分野に進もうと考えていましたので、1ヶ月間大学図書館で研修見習いのような形でアルバイトをしました。大学院に入学後もその大学図書館でアルバイトを続けていましたが、理論だけでなく実際の現場での体験や先輩たちから学んだことは、その後ずっと役に立っています。

私の体験を書きましたが、社会に出て仕事をするようになると、大学時代のような長期の休みは通常取れなくなります。学生時代にしかできないことを是非見つけて有意義に長期の休みを活用してください。3年生で、「特別実習」(インターンシップ)の科目を履修している人は、充実した実習になるよう応援しています。今年の猛暑に負けないように規則正しい生活を心掛けましょう。

ドキュメンテーション学科主任

原田 智子 Tomoko Harada



ノート PC 貸与説明会にて初期設定をする新入生

今年の4月に鶴見大学のドキュメンテーション学科の一員になりました。

4月中の授業は、所属している文学部硬式野球部の公式戦のために受けられないこともしばしばあり、他の人と比べてどんどん遅れてしまいました。ですが、大学に入ってできた友人のH君やKさんが、前の授業ではどんなことをやったのかを教えてください、助けてもらいました。

あるパソコンの授業で10分間で400文字程度をタイピングするというノルマを達成しなくてはならない授業があり、達成できないと補講があるため、なんとしても合格したかったのですが結果は全然だめでした。パソコンを取り扱う学科でもあるのに、そんな結果なのが情けなくて、暇な時間を使って図書館でタイピング練習をすることもありました。

そんな感じで大学の授業は高校までとは大きく違い、専門的なものも多くなり、ついていくのに必死でした。

前期の試験でも、自分の考えが甘かったということを知らされました。正直、高校とそこまで変わらないだろうと舐めている部分もあったのでしょう。結果を見なくても、悪いとわかるような手応えでした。

大学生活は今までで一番忙しく、充実しています。勉強に部活動、アルバイトや人間関係、少しずつ社会人へ近づいているのだという実感が湧いてきます。

後期では、甘い考えを捨て前期の失敗を繰り返すことのないように友人と協力しながら、一つ一つに全力を尽くし、励みたいと考えています。

前期を終えて

堀田 歩
Ayumu Hotta

まず、率直な感想としてはドキュメンテーション学科の生徒として前期を過ぎたと言うよりも「大学」という生活の基盤に慣れることに手一杯で、学科生としての自覚を持たぬままに前期を終えてしまった印象が強いです。ですが、やはりこの学科は(分野として見た場合の)「情報」と結びつきが強い、という思いを起こさせることが何度かありました。

大学ではレポート課題などが増えたので、それを処理するため必然的にコンピュータに触れることとなります。それは他の学科でも同じことなのですが、この学科では一年の前期から基礎ながらもコンピュータに関わる物事や権利を学ぶためか、自分が学んだ機能をいかに生かして、また、誰が見る文書であるかということ意識しながら課題に取り組むことが増えたように思えました。私は高校時代からレポートを書く機会が多かったのですが、見比べてみると、最近書いたものには、少なからず客観視点に対する意識を持ち始めているように感じます。

4年間ある大学生活のうち、ドキュメンテーション学科の学生として私が過ぎた時間はまだほんの僅かです。私は10年近くコンピュータに触れてきていますが、この学科に入って、その専門知識、特にその倫理などに簡単に触れただけでも、その接し方、扱い方、考え方が変わったことに、「学舎」としての大学の姿を垣間見ることが出来ました。ドキュメンテーション学科生としての実感、自覚はまだ薄いですが、自分にとって確かなものとなる力を身につけられるこの場で、有意義な4年間を過ごしていかなければならない、と深く考えさせられるばかりです。



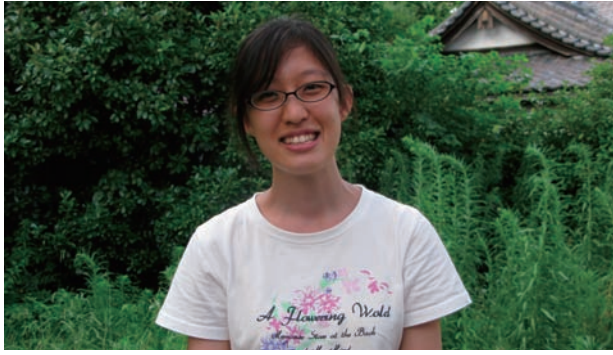
印刷博物館にて活字印刷の体験をする新入生

学舎としての大学

山元 美菊
Migiku Yamamoto

新入生の声

ドキュメンテーション学科に入って



経験あってこそ 今

神野 友里
Yuri Jinno

ドキュメンテーション学科は日本文学科などよりずっと人数が少ない学科ですので、友人ができるのはあっという間でした。入学式当日にできた友人から日に日に人数は増えていき、今や学科の3分の1は友人です。友人とは時にふざけ合い、助け合い、一緒にご飯を食べ、一緒に授業へ参加する。——学生生活になくってはならない存在です。

私が1年生の時からお世話になっているのは、元木章博准教授です。元木先生とは元木クラスの友人を通じて知り合いました。元木研究室が行っている実験祭りへ参加して、簡単なプログラムやネット上のなりすましの実態を知りました。また、「情報メディア学会」の受付をする短期バイトも良い経験でした。その際、研究者の方々と元木研究室の先輩の発表の仕方やスライドの作り方はとても参考になりました。また、4年生の卒業論文進捗報告会や本番の卒業論文発表会にも参加しました。元木研究室では実に様々なテーマで卒業論文に取り組むことができることが分かりました。

このように私は色々な人に出会い、沢山の経験をさせていただきました。私は図書館学を学びたいという思いでドキュメンテーション学科に入学したのですが、いやでもコンピュータの知識はつきますし、タイピングは入学する前と比べたら、格段に上達しています。他ジャンルの勉強もできるのがドキュメンテーション学科の良いところです。

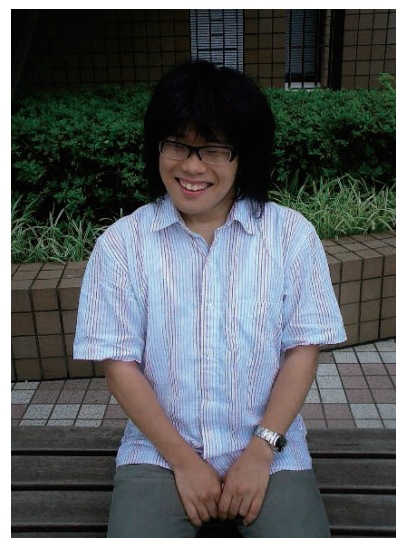
ドキュメンテーション学科の最初の1年間は「貴重な出会い」そして「経験」に恵まれていました。これからは、その経験を生かすいろいろなことに「挑戦」していきたいです。

私は、この学科に入り、自分が変わったなと思いました。それは、ただ1年間過ごしたからではなく「1年間この学科で学生として過ごしたから」だと思います。

具体的に言うと調べ物がとても楽しいものだと感じるようになりました。以前の私は調べるのが嫌いで下手だったので、何か知らない単語があったとしても気にせず調べもしなかったと思います。しかし、今の私は何かの拍子に辞書を開いた時、何か知らない単語があるとその辞書で調べ、もしその辞書に記してなかったら他の辞書やネットを使い調べたくになります。そのためか、辞書を引く速度も以前の私とは違いとても速くなりました。

この学科の授業では、調べ物をたくさんします。例えば、ある授業で「かまんちょろとは何のことで、何処の方言か」という問題を出されたことがありました。その授業では1人につき1問ずつ問題が任せられ、適切な資料を先生が紹介し、その後、各自ネットと辞書両方を使ってどういった問題だったのかをまとめることが求められていました。そこで、なんとかインターネット上で情報を見つけるまでは良かったのですが、辞書に不慣れな私は、なかなか目的の単語を見つけることが出来ませんでした。しかし、そこに先生が通りかかり、質問した所、驚く程あっさりとその単語を見つけることが出来ました。

気がつけば、そうやって調べ物をして、自分の知識を増やすことがとても楽しいと感じる私がありました。



調べるのが好きな私に

松澤 俊
Shun Matsuzawa

教育実習を終えて 長澤 一久 Kazuhisa Nagasawa

■教育実習体験記

私の教育実習は6月の中旬から、母校である工業高校で「情報技術基礎」という、専門教科「情報」に近い内容の科目を、1・2年生に対して「 n 進数の変換」の単元で受け持ちました。

2週間という短い期間でしたので、担当教諭の方の計らいがあり、教育実習初日から授業を担当しました。授業をやってみると準備不足が痛感でき、授業後はまず補助教材や授業計画の練り直しを行いました。特に私が重要だと思ったのが板書計画と机間指導です。

黒板への板書がうまくまとまらないと、要点が散らばってしまい、生徒たちがノートへ写す際に混乱させてしまいます。また、机間指導で生徒の理解度を把握した授業進行をしなければ、次へ進んでもついてきてくれないだけでなく、理解を放棄させてしまうことにも繋がります。

これらを改善した授業では、生徒たちから「なるほど」「分かった!」といった反応があったので、嬉しさと達成感が実感できました。それよりも、なんとかなった安堵感の方が強かったと思います。

私は、教職課程を多くの人に体験してもらいたいと思っています。授業を通して、情報を正しく伝え、相手がなにを考えているかを読み取る、プレゼンスキルやコミュニケーションスキルを高めることができます。これは、一般企業でも必要なスキルです。

ぜひ今からでも、教職課程を学んでみてください。社会人になる直前の、大学生という今でしか学べないことのひとつです。



学んだことを 活かす

長田 春菜
Haruna Nagata

私は図書館司書になりたいと思い、ドキュメンテーション学科に入学をしたので、1年生の頃からずっと、3年次のコース選択では「図書館学コース」を選択しようと思っていました。

2年生の終わりに「コース選択説明会」があり、そのときに自分がどのコースに進んだらいいのかを改めて考えてみることにしました。入学してから2年間で様々な授業を受けて、多くのことを学びました。図書館学の授業では、図書館の歴史や図書館司書の仕事、情報サービスについてなど、今まで知らなかったことも多く、さらに興味を持つことができました。そして、レファレンスサービスでは利用者の必要としている情報を、データベースなどを活用し、探し出さなければならぬので、司書はパソコンを使いこなせることも必要であるということを知りました。入学当初、私はパソコンが全く使えなかったのですが、情報学の授業でパソコンを使う機会が多くあったので、次第に使えるようになり面白いと思うようになりました。これまでに受けてきた授業を振り返ってみて、やはり、1番興味のあることは図書館学だと思ったので、3年次のコース選択では図書館について多く学べる「図書館学コース」を選択しました。

もうすぐで就職活動が始まります。今は自分が将来何をしたいのか、ということを考える重要な時期だと思います。自分自身を見つめ直し、本当にやりたいことが何か考えようと思います。そして、残りの大学生活でも知識や技術を身につけて、将来就いた仕事で活かすことができればよいなと思っています。

学生の声

それぞれのコース選択

私はコンピュータを使ったホームページ作成やネットワークに興味を持ったので、情報学コースを選択しました。

この大学に入学した第一の理由は司書の資格を取るためでした。けれども、2年生で選択できる情報学コースの授業を受けて、3年生になっても、いろんなプログラミング言語や、ネットワークのことを学んでみたいと、強く思うようになり、情報学コースの授業に興味を湧いてきたのです。

必修科目でホームページを作成する授業があり、情報学コースの科目がいくつか選択できるようになりました。選択科目では JavaScript や XML などのプログラミングの授業、ネットワークの仕組みを学ぶ授業を履修しました。JavaScript を学ぶ授業では、HTML を基に CSS(カスケーディング・スタイル・シート)でホームページをデザインし、JavaScript を組み込むことで、HTML では出来ない機能をつけることに、面白みを感じました。ネットワークの授業でも、自分が何気なく使っているインターネットがどんなものなのか学ぶことができ、毎週の授業が楽しみでした。

実際、3年生になり授業内容が難しく、悩むときもあります。それでも、分からないところは先生に教えてもらい、また友人と相談しながら、授業内容を理解できるように頑張っています。

この情報学コースで学べる期間も1年半と残りわずかになってしまいました。毎日の授業を楽しんで受講できるよう学生生活を充実させていきたいと思います。

学び、作る ことの楽しさ

杉田 絵里奈
Erina Sugita



情報学コース

きっかけは くずし字

小林 則仁
Norihito Kobayashi



初めは図書館学コースに進むつもりでいました。書誌学については古典籍を扱うということを知っているだけで、見向きもしませんでした。それでも2年生になり講義選択をする際には、せっかくドキュメンテーション学科に属しているのだからと、書誌学の講義もいくつかとってみました。そのとき受講した「古典籍読解演習Ⅰ」や「書誌学基礎演習」、「書誌学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」が書誌学コースに進むきっかけとなりました。特に「古典籍読解演習Ⅰ」で”くずし字”を学んだことが大きかったです。

平安時代から江戸時代まで使われていたくずし字は、とても奇妙な形をしています。そして古い時代のもほど文字が連なっているので1字1字を見極めるのがとても難しいです。けれども訓練を積んで慣れてくると自力で読めるようになり、くずし字を読解している間なんともいえない充実感を味わえました。古典籍にはこんなにおもしろい文字が書かれているのか。書誌学ではこんなに面白いことを学べるのか。この時、興味は図書館学から書誌学へと移っていました。

3年生になった今、古写本演習や古版本演習で図書館の貴重書を実際に手にとり調査をしています。くずし字も面白いけれど、それが書かれている古典籍も面白いです。調査の意義や方法を学んだ上で接すると、とても興味深いものであることがわかります。400年以上も前の生の書物はどれもユニークで、調査のたびに新たな発見があり、興味は尽きそうにありません。

着任
挨拶

昔の本の "個性" をまなぶ — 着任のごあいさつをかねて —

久保木 秀夫

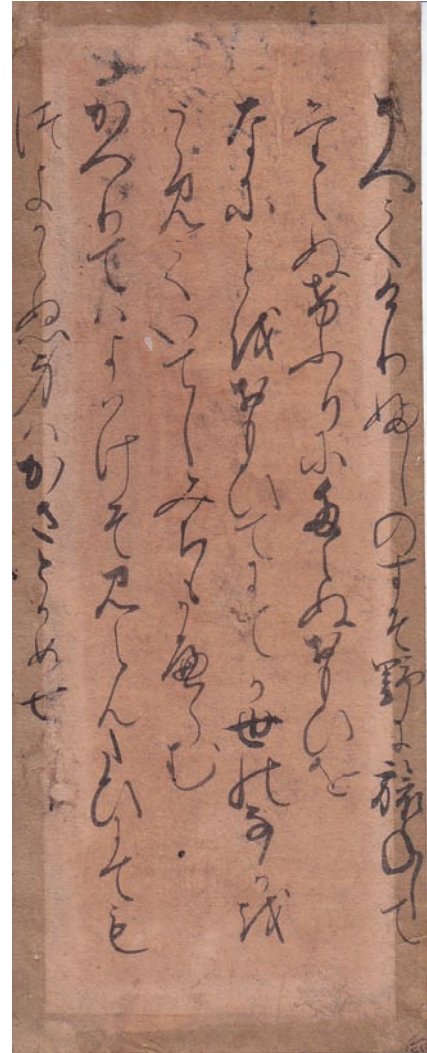
本年度、ドキュメンテーション学科に専任講師として着任した久保木秀夫です。書誌学コースの、特に日本の古い写本に関する授業を担当しています。昨年度までは、国文学研究資料館という研究機関に勤めていました。全国各地に伝わっている古典籍や古筆切（古写本を観賞用に切り取った断簡です）の調査・研究が専門です。

ところでよく「書誌学ってなんですか？」と聞かれることがあります。いろんな答え方がありそうですが、私の場合は、こんなふうに答えるようにしています。「古い書物の形や内容を詳しく、丁寧に調べていくことによって、書物ひとつひとつの個性を明らかにしたり、その書物にまつわるさまざまな事柄を推理していったりする学問です」と。

例えば、図版のような古筆切があります。これを見ても、いくつも疑問が浮かんできます。もともとはどんな形の本だったんだろう？いつぐらいに作られた写本なんだろう？何が書かれているんだろう？などなど。

そこでこの古筆切の寸法や紙質を詳しく調べたり、くずし字を解読したり、いろんな本にあたったりして、その疑問を解いていこうとするわけです。結果、この古筆切に関しては、もともとは卷子本で、15世紀中頃に飛鳥井雅親^{まさちか}という人物によって写されたものらしいことや、中身は12世紀の歌人源仲正^{みなもとのかまさ}の、『法輪百首』という、今は散佚している和歌作品の一部分（！）らしいこと、などがわかってくるのです。

そんなことを明らかにしていくためには、古い書物に関するいろんな知識や、くずし字解読をはじめとするさまざまな技術が不可欠です。ドキュメンテーション学科では、本学図書館が所蔵するたくさんの古典籍の実物を存分に活用しながら、そうした知識や技術を専門的に学んでいくことができます。本好き、古い物好きのみなさん、ぜひとも一緒に勉強してみませんか？



『法輪百首』断簡

〔釈文〕

そへてけりふしのすそ野に旅ねして
たえぬけふりにたえぬおもひを
なにことをおもひてにてか世のなかを
うらみていてしみちもかへらむ
かへりてはよはけそ見えんたひにても
つよからぬ身はかさとかめせ口

『法輪百首』は、保延3年（1137）に、京都の法輪寺で詠まれたか、同寺に奉納されたかという和歌作品です。作者は源仲正という武家歌人。これまでは古い文献に引用された数首が知られていただけで、法輪百首そのものが書かれた本は確認されていませんでした。



研究室紹介

を紹介します！

ひときわ暑い今年の夏！

4年生は、卒業論文の完成を目指して汗を流しています。

原田研究室

私が所属する原田研究室は、男子2名、女子8名の計10名で、毎週木曜日の2限に卒業論文演習を行っています。2月から集まり、卒業論文のテーマ決めや文献調査を行なうことから開始して、5月には無事に全員、研究題目を教務課に提出することができました。9月にはゼミ合宿もあり、これまでの調査結果などを含んだ中間発表を行なう予定です。また、原田先生には、卒業論文に関する質問や相談、進行具合を報告する他に、就職活動の状況や相談なども聞いていただいています。これからも卒業論文完成に向けて、励んでいきたいと思います。

(寺田 真純)

岡田研究室

岡田ゼミでは「自分で考えてやる」ことをモットーに活動しています。授業の最初に、先生から出された課題を自分でまとめ、それを他の学生の前で発表しました。そこで、発表の仕方と聞き方を練習しました。夏になると、先生と個人で面談をするようになります。「自分のことは自分で」を基本方針にしていますが、学生のやったことには必ず助言をしてくれます。ただ先生に頼るだけではなく、学生自らがやることを求められるゼミです。

(山内 悠加)

長塚研究室

長塚研究室では、卒業論文は学生自身が主体的にテーマを決めて研究することを大切にしています。本年度のゼミ生は携帯電話やインターネット、電子書籍についての研究、さらに、高速カメラを使った卓球・バドミントンのデジタル教材の作成など個性的で幅広い内容で取り組んでいます。週に1回集まり、その時までの研究の中間発表をしています。質疑応答を通じて意見交換をしています。9月にはゼミ合宿を行う予定ですので、ゼミのメンバーと共に仲を深めることが出来れば良いと思います。

(中山 大基)



大矢研究室

卒業後は3DCGを学ぶために進学を考えている私は、3DCGに関係するテーマを絞り込むまでは順調でしたが、その後は、好き勝手に過ごしてきた生活から、やりたいことをかなり制限した卒論主体の生活に切り替えるのに手間取ってしまいました。7月の授業も終わりとなってようやく卒論で使ってゆく道具が揃い、具体的な方向性が見えてきました。「テーマを決めて、方向性を定めるために実験を繰り返していたころは、まだ卒論は始まってもしなかったんだな」と、大学生活4年間の集大成としての卒論の難しさを感じています。

(濱野 浩之)

伊倉研究室

情報学を主に勉強してきたので、卒業論文も「健康に関するデータベースの作成」をテーマとしています。古典籍にはまったく興味がありませんでしたが、昔の双六や昔の人のサイン（花押というようです）などについて、みんなが発表を聞いていると、面白いものだなと思うようになりました。また、違うコースの人たちに、自分の研究に興味を持ってもらうように考えるうちに、視点に広がりが出てきたようにも思います。

(石橋 徹)



元木研究室

元木研究室では、ネットワークセキュリティからオタク文化に至るまでネットワークに関する分野で、幅広く研究を行っています。また、どんな小さな疑問にも先生は細かく、正確に答えてくれるので、どんどん知識を増やして行くことができる研究室です！！ 研究室内は堅苦しくなく、どちらかというとオープンで、4年生だけでなく、2・3年生も毎日のように授業内容の質問に来ていたり、休日には卒業生まで来ていたりもします。

(半沢 秀憲)

久保木研究室

久保木ゼミは日本書誌学を専門とし、特に写本等の古典籍について学ぶゼミです。卒業論文演習では、ゼミ生自身が書きたいと思うことが尊重されます。その上でどのように論旨を展開すべきかなどを、先生と一緒に考えていきます。私がゼミで書いている卒論は、日本古典籍における料紙について調査研究し、初心者でも料紙の判別が出来るように、その基準を明らかにするというものです。今は大学図書館にある古典籍にあたって、データの採取に励んでいます。

(奥村 齊亮)



平成 22 (2010) 年 4 月 -7 月

ドキュメンテーション学科・学会活動報告

4月5日(月)

平成22年度入学式

午前10時より本学体育館にて、入学式が行われました。その後、ドキュメンテーション学科全教職員との初めての顔合わせがありました。新入生80名に加え、ご父母の皆様にも、お集まりいただきました。新入生は、緊張した面持ちで、教職員の話聞いていました。

4月8日(木)

新入生へノートの貸与

ドキュメンテーション学科の学生全員にノートPCを貸与しました。入学して、たくさんのオリエンテーションが続く中、一人ひとりが、ノートPCを受け取りました。これからの新しい学生生活、そして卒業に向けて、ノートPCを大いに活用して下さい。

4月24日(土)

印刷博物館見学会

ドキュメンテーション学会毎年恒例の春の見学会で、印刷博物館へ行ってきました。今年は晴天に恵まれ、気持ちの良い土曜の午後でした。

職員の方に館内の説明や、見学をしながら、常設展の解説していただき、参加者には幸運でした。また、博物館内にある「印刷の家」で、活版印刷の体験もさせていただきました。

5月17日(月)・31日(月)

PC補習を実施

みなさんは、どのくらいの正確さやスピードで、タイピングが出来ますか?ドキュメンテーション学科では、スピード(入力速度)目安を「10分間で400文字の入力が出来るようする」としています。新入生を対象にタイピングテストを行い、その結果に基づいて補習を行っています。



7月10日(土)

ドキュメンテーション学会総会を開催

ドキュメンテーション学会の会員である在學生、卒業生、教員が出席して、平成22年度学会総会が開催されました。

総会では、昨年度と今年度の事業計画と予算計画の報告がなされ、異議無く承認されました。



総会終了後は、大学記念館1階の学生食堂で交流会が開催されました。在學生と卒業生含めて約170名の出席者があり、学年を超えての交流を深めることができました。

交流会終了後には、図書館や企業に勤務している卒業生を囲んで、就職活動のアドバイスや現在の仕事の状況など、大学の授業では知ることのできない現場のお話などをうかがうこともできました。卒業生の皆さん、ありがとうございました。

※活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

■「ドキュメンテーション」第10号をお届けします。

■連載「マークアップ言語のグリーンナ」はお休みさせていただきます。

■編集委員

〔学生〕井上 優^{1年}・金丸早希

〔教員〕原田智子・元木章博

ドキュメンテーション 第10号

平成22(2010)年8月20日(金)

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

横浜市鶴見区鶴見2-1-3(〒230-8501)

☎045(581)1001(代表)発行責任者:原田智子

学科ホームページ: <http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>